

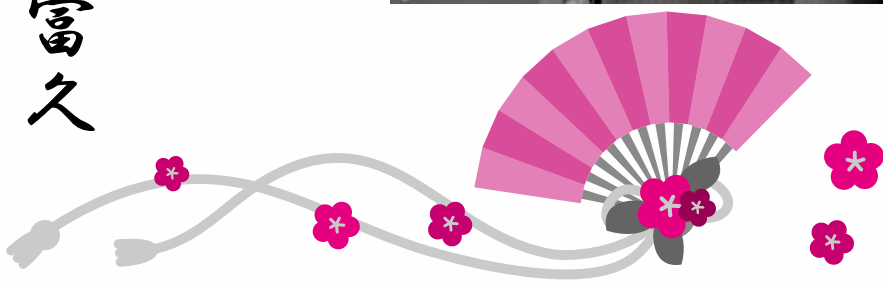


新年のごあいさつ

ひと集い 学びあふれる

生涯きらめきのまち つる

都留市長 堀内 富久



あけましておめでとございます。市民の皆さまには、輝かしい新春をお迎えのこと心からお喜び申し上げます。

平成25年12月就任以来2年が過ぎ、市民の皆さまをはじめ、市政に関わる多くの皆さま方に、多大なるご支援をいただく中で、第5次長期総合計画及

び4つのコンセプトに沿った市政運営が推進できておりますことに心から感謝申し上げます。

市では昨年4月より、地方創生への積極的な取組や簡素で効率的な行財政経営の確立と、市民の皆さまにとって身近で分かりやすい市役所とするため、組織・機構の見直しを実施しました。高齢化への対応、子育て支援、健康

寿命の延伸など、「ひと」や「くらし」を守り育てるための市民サービスをそれぞれの対象者に適切に対応できる体制とするとともに、互いの連携を強化するため、既存の3部制から4部制へ増設し、それに伴う課も創設する中で、長期総合計画の策定・実行を見据えた新しい組織体制として、スタートしております。

平成28年度から11年間を計画期間とする「第6次都留市長期総合計画」の策定にあたりましては、長期総合計画審議会における委員の皆さまからの活発なご意見や市内各地で開催しましたふれあい集会などでいただいた多くのご意見を反映する中で、この計画の方向性と長期的で普遍的なまちづくりの考え方を示す「基本構想」を12月議会で議決いたしました。

この「基本構想」では、都留市の目指すべきまちの将来像を「ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる」とし、新たな産業の創出や、移住・定住の支援、そしてまた、豊かな地域資源を活かして、まちの魅力を最大限に引き出すことにより、多くの人がこの地に集い、自分らしい暮らし方を発見することとしております。

そして、この地で生活する人すべてが、まちのために活躍し、相互に高めあい、いつまでも元気で、きらめく人生を送れるようなまちの姿を目指します。

まちづくりの推進にあたっては、産業・基盤分野の「創ります！しごととくらしの充実したまち」、福祉・子育て・健康分野の「育みます！優しさ元気なまち」、教育分野の「輝かせます！学びあふれるつるのまち」、生活・環境分野の「繋ぎます！人と自然がいつまでも輝くまち」、安全・安心コミュニケーション分野の「紡ぎます！人と人のつながりのまち」、そして、行財政分野の「実行します！新しいステージへ」と、6つの分野とそのまちづくりの方向から重点的な取組を「リーダーシッププロジェクト」として設定し、庁内横断的に取り組むことで、さらなる成果を上げていくこととしています。

さらに、人口減少社会においても、昨年10月に策定した「総合戦略」で示した施策などによって、出生率の上昇による自然増を図るとともに、転入・転出の社会増減を均衡化し、第6次長期総合計画の終了年度である平成38年度において「人口3万人を維持すること」を目標に、諸施策を推進してまいります。

【生涯活躍のまち(CCRC)事業の推進】 このまちづくりの重要な施策の核として現在進めております「都留市版生涯活躍のまち(CCRC)構想」による事業についてであります。東京一極集中の是正や地方の人口減

少対策として「地方移住」や「生涯活躍のまち(CCRC)構想」などが地方創生の目玉とされている中、本市ではこの「CCRC構想」にいち早く取り組み、全国的にも先進自治体として注目を集めており、昨年8月3日の内閣府主催の「第7回日本版CCRC構想有識者会議」においては、石破茂地方創生担当大臣、小泉進次郎大臣政務官(当時)をはじめとする同会議の委員や国の関係職員の前で、先進的な取組として、私自身が事例発表を行ったところ、取組への評価とさらなる構想推進への激励をいただきました。

また、12月11日の有識者会議の最終報告では、地方先行型交付金の特徴的な取組事例として本市の取組が取り上げられ、公表されたところでもあります。今後、都留文科大学を中心とした大学をはじめとする関係機関などとの連携を図りながら、移住者だけでなく、このまちに住むすべての人にとって「豊かなくらし」につながる持続可能なまちづくりへの取組としての「生涯活躍のまち構想」を進めてまいります。

【農林産物直売所を核とした地域活性化】 リニア見学センターの隣接地へ建設しております農林産物直売所につきましては、道の駅としての登録も予定しており、本年秋のオープンを目指して12月10日に起工式を行いました。

直売所に来場される方が、都留市の恵みを味わい、感動し、満足していただける施設となるよう、運営のカギとなる生産者の育成と組織作りと併せて、運営主体の検討を進めているところであります。

建物のコンセプトは、田園風景にマッチした古民家風のモダンな建物をイメージとし、木をふんだんに使用した解放感のある建物となります。施設内には、地元で収穫された新鮮な野菜が



都留市長期総合計画基本構想(素案)の市民ワーキンググループの様子



各地で開催された『ふれあい集会』の様子



農林産物直売所の建設イメージ図

並び、併設されるレストランは地元食材を豊富に使った100席のカフェテリア形式で、ゆったりとくつろげる空間を演出しています。また、イベント広場や芝生広場、多目的スポーツ広場を設置し、買い物だけでなく、市民や訪れる方々が憩える施設も併設します。

「市民に愛され」「地域に愛され」訪れる人に愛される、かつ、観光産業の発信拠点として、市の活性化の起爆剤となるよう整備してまいります。

【教育首都つる】のさらなる発展】 桂高校の跡地に誘致しました「健康科学大学看護学部」につきましては、学校法人富士修紅学院とともに鋭意準備を進めており、予定どおり本年4月に開学となる予定です。

市としても、この健康科学大学が、学生人口の拡大、富士・東部地域の看護師確保対策、医療環境の充実、地域の活性化など、非常に重要な役割を持つものと認識し、市独自の入学金

の助成や授業料相当の奨学金の条件拡充などもすることとしました。今後とも、市内の高校生の新しい魅力ある進学の実績となるよう、そして、本市の新しい「学び」のシンボルともなるよう、連携と支援をしてまいります。

また、都留文科大学につきましては、少子化においても、「選ばれた大谷学」として居続けられるよう、「教員養成系大学としてのブランドの強化」

「グローバル化を支える人材の育成」などを基本目標とし、整備を進めてまいります。

【心豊かに暮らせるきらめきのまちづくり】 子育てしたい「まち」、健康できらめく「ひと」、いつまでも安心して暮らせる「まち」の創生には、ライフステージに合わせた様々な支援策が必要です。

そのためには、地域における子育て環境の充実に向け、市内で出産でき、のびのびと子育てができ、子どもたちの笑顔があふれるような切れ目のない支援体制を構築します。

また、介護予防や健康増進の拠点としての「居場所」や「健康ジム」を整備し、ライフステージに応じた健康づくり施策を進め、市民の健康寿命の延伸を図ります。

本年も、新しい基本構想に掲げる「ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる」の実現に向け、昨年同様、全力で取り組んでまいりますので、市民の皆さまの一層の市政参加・参画にご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとって幸運な年となりますことをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

第6次都留市長期総合計画 基本構想を策定しました！

基本構想とは？

基本構想とは、長期総合計画全体の概要や、本市が目指す将来像を示すものです。昨年来、市民の皆さまと協働で策定に向け取り組んできましたが、12月議会において議決されたことにより、平成28年度から11年間にわたる方向性を決定しました。

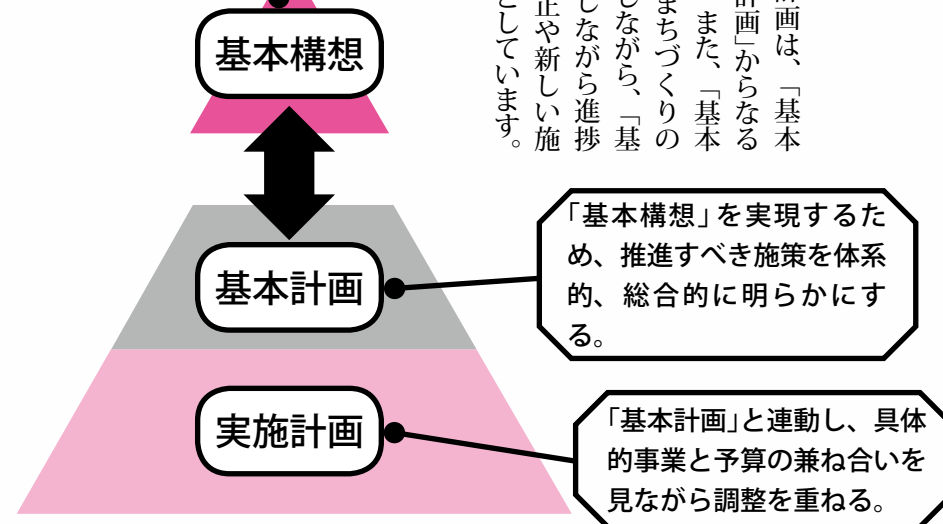
第6次都留市長期総合計画 基本構想の概要

■計画の構成・期間等

(1) 構成
第6次都留市長期総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」からなる3層構造を採用しています。また、「基本構想」は長期的で普遍的なまちづくりの考え方として高次元的に示しながら、「基本計画」「実施計画」が連動しながら進捗していく形式とし、方向修正や新しい施策を逐次反映しやすいものとしています。

長期的で普遍的なまちづくりの考え方(理念)を構想と位置付け、その方向性を高次元的に示す。

■構成イメージ図



(2) 計画期間
団塊の世代が後期高齢者となる、平成37年が地域社会の大きな転換期になるという考えから、その課題解決に向けた目標の年次をこの翌年(平成38年)に設定します(11年計画)。また、「基本計画」については前期・中期・後期の3期に分け、きめ細やかな計画策定を進めます。

■計画期間表

計画年次	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年
基本構想	[長期的な期間にわたって継続]										
基本計画	前期計画			中期計画				後期計画			
実施計画	[年次ごとに実施]										
市長任期	[平成28年～平成34年]										

■都留市の強みと弱みの把握

都留市の強み	都留市の弱み
首都圏に位置する自然豊かなまち	人口減少・少子高齢化の波
地域に根差した大学のある学園のまち	経済活動の冷え込み
歴史・文化息づくまち	生活環境の快適性向上の必要性
集客力の高い観光施設の立地	求められる子育て環境の充実

「地方創生」の流れ → 「強み」を伸ばし、「弱み」を克服する → 理念や将来像の設定

■将来像

ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる

新たな産業の創出や、移住・定住の支援、そしてまた、豊かな地域資源を活かして、まちの魅力を最大限に引き出すことにより、多くの人々がこの地に集い、自分らしい暮らし方を発見します。

そして、この地で生活する人すべてが、生涯を通していきいきと学び、自己のため、家族のため、そして、まちのために活躍し、相互に高めあい、いつまでも元気で、きらめく人生を送れるようなまちの姿を目指します。

■将来見通し

直近の傾向を基に将来人口を推計すると、総人口は平成34年頃に30,000人を切ることとなります。

こうした状況に対し、第6次都留市長期総合計画を実施することにより、転出を抑制し、出生率を向上させることで、**計画終了年に人口3万人を維持するまちを目指します。**

産業

産業についての統計の直近の傾向を基に推計すると、第一次産業、第二次産業、第三次産業ともに農業算出額、製造品出荷額、年間商品販売額それぞれが大きく落ち込むことが懸念されます。

こうした状況に対し、第6次都留市長期総合計画を実施することにより、**各産業ともに産出額の維持・向上を目指します。**

土地利用

本市の約85%は森林であり、人が住みえる平地面積は非常に限られています。今後の土地利用は、開発と保護の健全なバランスを取りながら

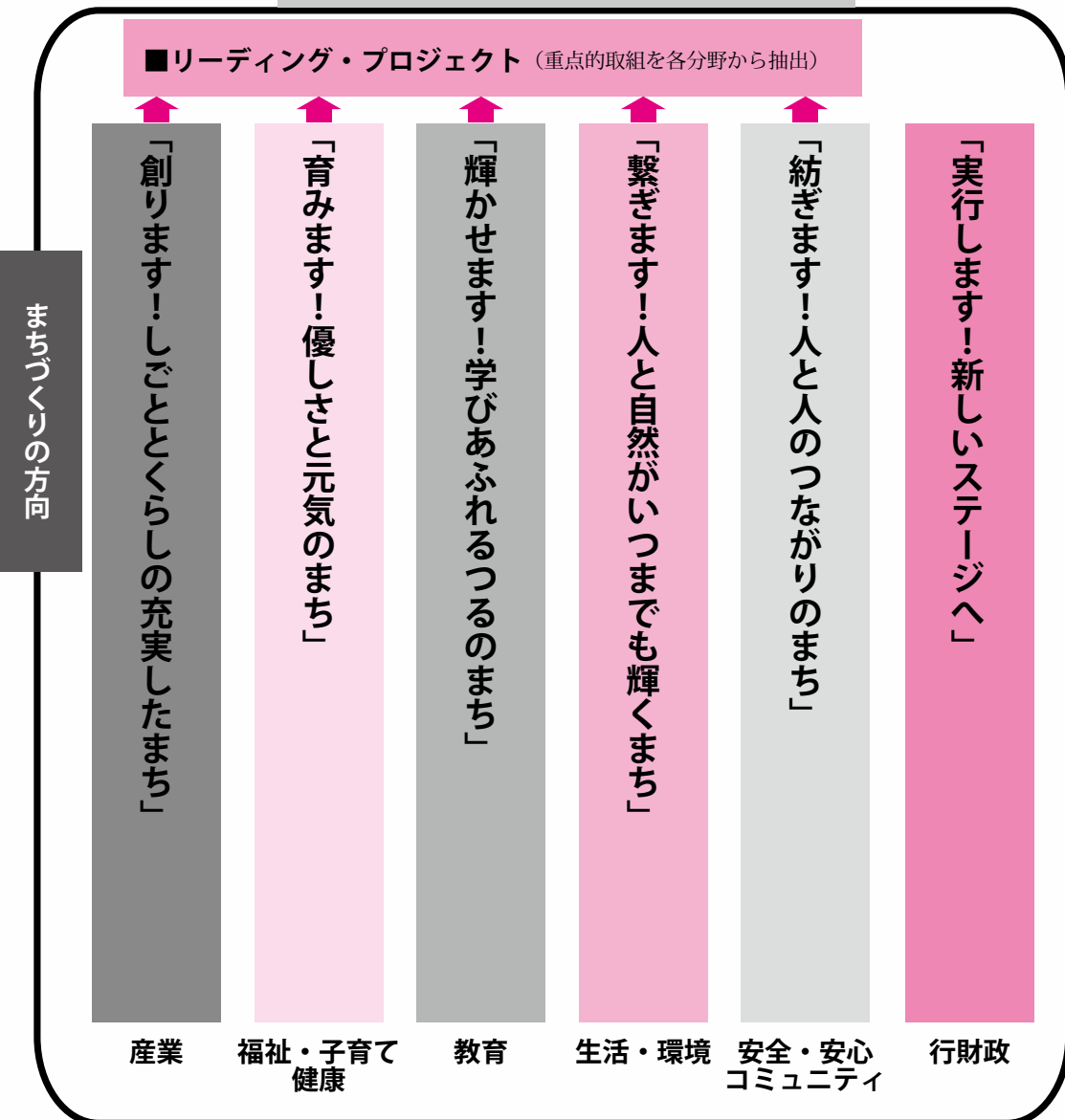
適正な土地利用を進めていきます。

■まちづくりの方向 イメージ図

ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる

取組によって将来像を実現

■リーディング・プロジェクト (重点的取組を各分野から抽出)



■まちづくりの方向
本市のあるべき将来像を実現するため、次の6つのまちづくりの方向を定め、取り組むこととします。また、第6次都留市長期総合計画は、基本計画の期間ごとに力を入れるべき事業を「リー

ディング・プロジェクト」として設定し、庁内横断的に取り組むことで、大きな成果を上げることが目指します。

今後、この基本構想に示す将来像「ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち」の実現に向け、具体的な取組を示す「基本計画」の策定を目指しています。この「基本計画」のパブリック・コメントを実施いたしますので、ご意見をお寄せください。詳細は15ページの情報クリップに掲載しています。